

参画だより

No.48

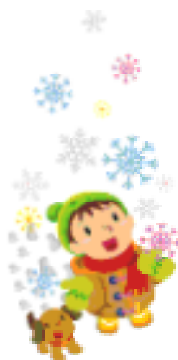
2012. 11. 30

弘前市民参画センター

PICK UP!

男女共同参画の視点で読む
世界の格言・名言

もしも、この世が
喜びばかりなら
人は決して
勇気と忍耐を学ばないでしょう。
ヘレン・ケラー



- 弘前市民参画センター事業紹介「さんかくセミナー」ほか P 2・P 3
おとこの気持ち聞いちゃいました「ミッケ!キラリとひかる青年」 P 4
さんかくひとりごと「身近なこととして考える」 P 4
利用者・利用団体紹介「青森県若者サポートステーション」ほか P 5
まなぼ「弘前市男女共同参画プラン」第2回 P 6・7
本の紹介「満月の夜、母を施設に置いて」 P 8
センターからのお知らせ P 8



平成24年度第1回さんかくセミナー

7月29日、市民参画センターで今年度第1回さんかくセミナー「一人ひとりの笑顔があふれる弘前の実現」を開催しました。

今回のセミナーでは、昨年度策定した「弘前市男女共同参画プラン」完成までの経緯や内容の説明と、参加者も交えた話し合いを行い、弘前市の男女共同参画推進について考えました。

前青森県青少年・男女共同参画課副参事の山谷文子さんをコーディネーターに、プランの策定にかかわった青森県立保健大学教授の佐藤恵子さん、NPO法人青森県男女共同参画研究所理事長の前田みきさん、前弘前市市民との協働推



(左から) 山谷文子さん、北岡聖子さん、前田みきさん、佐藤恵子さん



活発に意見が交わされたグループでの話し合い

進室長の北岡聖子さんがパネラーとして出席。プランの概要を説明したほか、さまざまな世代・立場の意見が反映されるように努めたことや、より一層身近な問題として考えてもらえるような内容を目指したことなど、策定にあたって苦心した点を明かしました。

セミナーの後半では参加者がふたつのグループに分かれ、弘前市で男女共同参画をどのように進めるべきか話し合い、「市民からはたらきかけて条例をつくる」「各町内会で学ぶ機会を設ける」など、地域に広めていくためのさまざまなアイデアが出されました。

平成24年度第2回さんかくセミナー

9月9日、第2回さんかくセミナーを市民参画センターで開催しました。

今回のセミナーは「災害時の要援護者支援と男女共同参画」と題し、NPO法人さくらネット代表理事で、災害ボランティア活動に取り組んでいる石井布紀子さんが、災害に強い地域づくりについて講演しました。

石井さんは、災害発生時に高齢者や乳幼児など要援護者の被害を減らす取り組みとして、できるだけ狭い地域単位で一時集合場所と避難時の約束事を決めておくことなどを提案。「近所の支え合いで命が救われる可能性が高い」と、普段から地域で連携し、災害に対する共通認識を持つことが重要だと話しました。

また、避難が長期化すると、避



各地の講演や体験を交えての石井布紀子さんの事例



災害に備えた地域づくりや男女共同参画と防災のかかわりについて学ぶ参加者

難所で暴力や犯罪が起きやすくなり、女性と要援護者が被害にあうケースが多いという問題点について、石井さんは次のように意見を述べました。

「自主防災組織などの役員には女性が少なく、要援護者の視点で発想することが難しいために対策が遅れる。女性の意見をより反映させるためにも、運営委員会を設けて全員の合意のもとでルールをつくることが不可欠。秩序のある避難所はトラブルも起きにくい」

会場には約30人が訪れ、災害時に地域が果たす役割について真剣に学んでいました。

平成24年度ひとにやさしい社会推進セミナー

9月30日、「ひとにやさしい社会推進セミナー」を弘前市総合学習センターで開催しました。

「パパが作るおいしいごはん・ママはスツキリあんよせらびー」と題したこのセミナーは、子育て中の家族に、日頃の家事分担を見直すきっかけとしてもらう目的で実施しました。

今回のセミナーには約10家族が参加しました。託児室に子どもを預けた後、料理研究家の福土るみ子さんの指導でパパが昼食を調理し、ママはフットセラピストの境江利子さんから足つぼマッサージの講習を受けました。



マッサージ講習に参加したママたちと講師の境さん（右から2人目）



料理に挑戦中のパパたちと完成したオムライスの一例

三児の母でもある境さんは、二人目が生まれたときは、上の子に我慢させることが多くなり、寂しい思いをさせたと思う」などと自身の経験を話し、参加したママたちはマッサージ指導と子育てのアドバイスを受け、心身ともにリフレッシュしていました。

一方、調理室では三角巾とエプロンを身につけたパパたちがオムライスなど3品の調理に奮闘しました。参加者同士で相談したり、盛り付けを工夫したりしながら完成させた料理は最後に家族で仲良く完食し、楽しいひとときを過ごしていました。

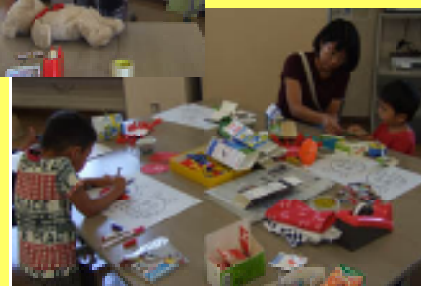
平成24年度さんかくネットつどいの広場

9月8日、弘前市の子育てサポートシステム「さんかくネット」の子育てサポーターと子育て中の家族の交流会「さんかくネットつどいの広場」を市民参画センターで開催しました。

今回の広場では、みどり保育園副主任保育士の小山洋詞子さんを講師に招き、牛乳パックや輪ゴムなどの身近にあるものを利用したおもちゃづくりを通して交流を深めました。

小山さんは工作の指導のほか、一時保育への対応や訪問による育児相談など、みどり保育園で行っている子育て支援の取り組みについて紹介しました。

また、近年の家庭での子育てについて「核家族化により、祖父母などから子育ての情報が得られない環境にあるようだ」と印象を述べ、「育児の先輩でもある子育てサポーターが自分の体験を話したり、相手の話をたくさん



おもちゃ作りを指導する小山さん（写真上・右）と工作に夢中の親子（写真下）

聞いてあげることによって親も安心すると思う」と、保育園などの施設だけではなく、サポーターによる子育て支援も求められている現状を説明しました。

Q. 男女共同参画って知っていますか？

A. 職場で男女共同参画のチラシ(機関誌)を見て知っています。

Q. 職場で男らしさを求められる事がありますか？

A. 仕事相手の言葉が暴力的な場合など、女性に対応するのが好ましくないときは、その対応は男性の仕事だと思う。あとは力仕事(笑)。

Q. 女性政治家・社長をどう思いますか？

A. トップが女性だということはこだわらない。その人の人柄や能力が適していれば良い。

Q. 自分でできる家事は何かありますか？

A. 共働きなので、家事は二人で分担しています。食器洗い、トイレ掃除、ゴミ捨ては主担当です(ドヤ顔)。

Q. 人生のパートナーはどんなとき必要ですか？

A. 落ち込んだときや幸せを感じたいときは。喜怒哀楽を共有し、同じ歩幅で人生の方向性を決めたいと思っています。

Q. 近々家族が一人増えるそうですね。どんな子に育てたいですか？育休は？

A. 男でも女でも健康ならそれで幸せです。育休は職場の人数が少ないので無理なようです。



30代・保健師・既婚

インタビューを終えて

～ミッケ！キラリとひかる青年～

初対面は顔ではなく真っ白な歯に目がいった。しばらく歯を見て話をしてしまった。大学では93対7で女子が多い4年間…。よく出てくる言葉が「恵まれている」「自然に慣れてきた」でした。謙虚で誰にでも好かれる爽やかな青年、きっと新生児のお父さんに頼りにされますね。

梅

～身近なこととして考える～



ドメスティック・バイオレンス (DV) という言葉も最近をよく見聞きするようになった。一般的には「配偶者や恋人など親密な関係にある、またはあった者から振るわれる暴力」という意味で使用されることが多い。人によっては親子間の暴力などまで含めた意味で使っている場合もあり明確な定義はないようだ。内閣府では人によって異なった意味に受け取られるおそれがある「ドメスティック・バイオレンス (DV)」という言葉は正式には使わず、「配偶者からの暴力」という言葉を使っている。

夫から妻へのDVが圧倒的に多いと思われるが、妻から夫へのDVも増えているらしい。平成23年度内閣府の「男女間における暴力に関する調査」によると、暴力を受けたことがあったと答えたのが女性32.9%に対し、男性18.3%だったという。

たまたま、妻から夫へのDVが増えているという放送を見た。さすがに殴る、蹴るなどという暴力は少ないものの、物を投げる、相手をなじるなど言葉の暴力が多い。女性の場合、育児や介護、仕事のストレスなどが重なった時に、自分の思い通りに事が運ばないと攻撃的になってしまうことが多いとのこと。また、「周りにどのくらい必要とされているか」というところに、自分の価値を見出す傾向があるため、子どもが独立したり、夫が出世したりして、「取り残されている」という思いが募ると、感情が爆発してしまうこともあるらしい。怒りをしずめる方法はいろいろあるが、相手の立場になること、自分を客観的に見つめることでかなり改善できるらしい。女性がストレスを抱える状況に陥る原因にもっと焦点をあてたら、もう少し見ごたえのある番組だったのに…。

「DVなんて我が家には関係ない。」「ただの夫婦喧嘩よ。」などと言っていられない。そもそも、DVとはどういうことをいうのかをきちんと理解し、私たちひとりひとりが社会の問題として考えていかなければという思いに…。



さんかくひとりごと



コミュニケーション講座の様子

〈総合相談〉
キャリアコンサルタントや臨床心理士がカウンセリングを行い、キャリア開発プログラムを実施します。

働きたあい！自立したい！

「学校を卒業・中退後、あるいは仕事を辞めた後、一定期間無業の状態にある若年者」（若年者とは概ね40歳未満を指す）の職業的自立支援を目的に、厚生労働省および青森県の補助を受け、平成19年青森市アスパム内に開所しました。青森県若者サポートステーション（以下サポステと略）の主な事業としては、次のメニューがあります。

弘前市民参画センター利用団体紹介
〈青森県若者サポートステーション〉

センター利用者に突撃インタビュー



50代・女性



◆センターの利用目的と利用頻度は？

年齢・男女問わずに誰でも気軽に参加できるインドのヨガをしています。今年の春から月2回程度夜に利用しています。

◆利用してみた感想をお聞かせください。

センターの職員の皆さんがとても丁寧に対応してくれて、心地よく使わせてもらっています。また、通いやすい場所と、利用料金が安いのが魅力的です。65才以上の方はよく利用しているように見えますが、その下の世代はどうなのかな（？）という印象を受けました。

◆センターに望むことはありますか？

正直言って、私をはじめ仲間は、ほとんどこのセンターのことを知りませんでした。たまたま知り、春から利用していますが、まだ知らない人が多いと思いますので、これからもPRして欲しいと思います。

◆「男女平等」について感想をお聞かせください。

言葉通りの平等はどうか…。経済的な面や外からのアクシデントがあったときは、男性が対応していると思いますので、まだまだ男性主体のところがあるのではないのでしょうか。

突撃インタビューに気さくにお話ししてくださいました。何事も自然に受け入れているように感じられて、つつい前からお知り合いのような印象を受けてお話を聞かせて頂きました。魅力的な女性でした。

by のん



ます。この一環で弘前市には毎週木曜日に出張相談をしており、その会場に弘前市民参画センターをお借りしています。（別会場という事も有、要確認）
〈ジョブトレーニング〉
職場体験やイベント等に参加すること、他者との関わり方やコミュニケーションの取り方などを学びます。
〈職場ふれあい事業〉
職業人の体験を聴いたり、職場見学を行うことで、仕事に対する楽しさに気づいたり、コミュニケーションの重要性を学びます。

〈その他〉
高校出前講座・保護者対象セミナー開催等
以上のメニューを実施していますが、弘前地域では相談希望者が多いため、本年度より従来月2回の実施だった出張相談を週1回に増やしました。もちろん、この事業は相談者が少ない方が社会的には好ましいのですが、職業的自立を目指すためのペースメーカーとして利用されたり、他人との関わりが苦手な方が徐々に克服していく様子にたくましさを感じたり、こうした取り組みの結果、「就職

した！」との知らせは非常に喜ばしいものがあります。
仕事について悩みを抱えているが、どこに相談したらよいかわからないという方は、ぜひ一度サポステにお問い合わせをしてみてください。



青森県若者サポートステーション
総括コーディネーター 酒井泰幸
キャリアコンサルタント 森岩樹
〈電話〉017・735・1323

同参画プラン

あふれる弘前の実現 ～

生き方や価値観の多様性を認め、性別に関わりなくすべての人にとって
として「弘前市男女共同参画プラン」を策定しました。
ンを3回に分け紹介します。

基本目標Ⅳ 地域社会における男女共同参画の促進

地域社会において、年齢、障がいの有無、国籍に関わらず、男女ともに基本的人権を侵害されることなく、安心して充実した日常生活を送ることができる環境整備を図ります。

【重点目標 8 男女共同参画の視点を踏まえた、地域活動、地域防災、環境保全活動】

施策の方向 1 地域課題の解決に向けた 取り組みへの支援

《主な取り組み》

- ★市民税の1%相当額を、様々な分野で自主的に活動している各種団体に対し助成〔市民参加型まちづくり1%システム事業〕
- ★市の職員が行政の立場から地域とのパイプ役となって地域づくりについて助言や協力するエリア担当制度を活用して、地域活動を支援
- ★市民のボランティア活動を支援・推進するボランティア支援センター運営事業

施策の方向 2 防災分野における 男女共同参画の推進

《主な取り組み》

- ★自主防災組織の育成・活動支援
- ★婦人防火クラブ、幼・少年消防クラブの活動支援
- ★女性消防団員数の増加

施策の方向 3 環境分野における 男女共同参画の推進

《主な取り組み》

- ★弘前市ごみ処理基本計画に基づく循環型社会形成の促進
- ★ひろさき環境パートナーシップ21（市民・事業者主体の自立的な任意組織）支援事業
- ★こどもエコクラブへ加入するなどのこどもの環境教育推進事業

【重点目標 9 高齢者、障がい者、外国人が安心して暮らせるまちづくり】

施策の方向 1 高齢者、障がい者、 外国人の自立・生活支援

《主な取り組み》

- ★障がい者の相談支援体制の充実と介護サービス相談体制の強化
- ★障がい者の雇用促進及び生活安定を図るため、障がい者を雇用する事業主に対し、奨励金交付
- ★市内在住の外国人留学生に対し経済的支援を行うとともに、地域活動へ参加してもらうことで国際交流を推進し、外国人留学生が生活しやすい環境を整備

施策の方向 2 高齢者、障がい者、 外国人が安心して 暮らせる環境整備

《主な取り組み》

- ★誰もが快適で安全・安心に暮らせるまちづくりを実現するため、「やさしい街『ひろさき』づくり計画」を策定
- ★海外の自治体との人事交流やホームステイによる弘前の国際人育成事業
- ★市役所の窓口サービスの充実

【重点目標 10 生活上の困難に直面する男女への支援】

施策の方向 1 ひとり親家庭の 生活安定への支援

《主な取り組み》

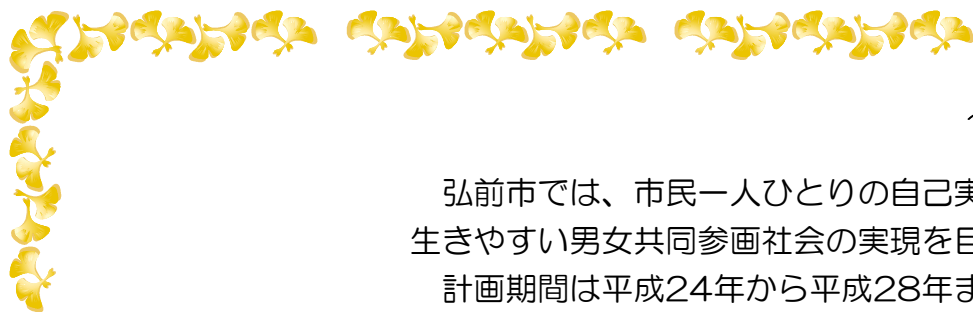
- ★ひとり親家庭の児童の健全育成を図るため、親の自立に向けた支援体制の充実

施策の方向 2 生活上の困難を抱えている 人々の課題解決の支援

《主な取り組み》

- ★個々の置かれた状況に配慮した相談・支援

【成果目標】…女性消防団員数を19(H23)から30(H28)とします。また、自主防災組織の結成率を7%(H22)から20%(H25)とします。



弘前市男女共

～ 一人ひとりの笑顔が

弘前市では、市民一人ひとりの自己実現を可能にするために、個人の生きやすい男女共同参画社会の実現を目指して、より実効性のある計画計画期間は平成24年から平成28年までの5年間とします。このプラ

○基本理念と基本目標

本プランの基本理念を「一人ひとりの笑顔があふれる弘前の実現」とし、その達成のために次の5つの基本目標を掲げ、男女共同参画社会の実現を目指します。

基本目標Ⅰ	政策・方針決定過程での男女共同参画の促進……………(第1回)で紹介済
基本目標Ⅱ	男女共同参画社会形成への意識づくりと定着……………(第1回)で紹介済
基本目標Ⅲ	職場、家庭における男女共同参画の促進……………(第2回)で紹介
基本目標Ⅳ	地域社会における男女共同参画の促進……………(第2回)で紹介
基本目標Ⅴ	一人ひとりの人権が尊重される社会の形成……………(第3回)で紹介

○基本計画の推進

基本計画の進ちょく状況を客観的に評価するものとして、基本目標ごとに「成果指標」を設定しています。この他、基本計画の進ちょく状況を評価する上での参考として、具体的な事業にあたる主な取り組みについても「活動指標」を設定します。

これらの指標を基に、市民の代表等で組織するアドバイザリー会議で評価・点検し、その結果を市役所の関係課へフィードバックして施策等に反映できるようにします。また、広報等を通じて市民に公表します。

基本目標Ⅲ 職場、家庭における男女共同参画の促進

「男は仕事、女は家庭」に代表される固定的性別役割分担意識などにとらわれず、家庭生活に男性も積極的に参加できるようこれまでの働き方を見直し、男女ともに多様な生き方を可能にする男女共同参画社会実現に向けて、仕事と生活の調和のとれた生活を送り、男女ともに一人ひとりが自分らしい生き方を選択できる環境づくりを進めます。

【重点目標5 雇用の場における男女共同参画の推進】

施策の方向1
男女雇用機会均等法
の定着促進

施策の方向2
女性の継続就業への
理解促進

《主な取り組み》

★国、県やその他関係団体と連携し、講演会やセミナーの開催、パンフレット等による理解の促進と定着

【重点目標6 農業等の場における男女共同参画の推進】

施策の方向1
農業における
男女共同参画の推進

《主な取り組み》

★女性農業者の意見を聞く場の設定や普及啓発活動を実施
★農業者と市長が対話する「青空座談会」の開催
★家族経営協定締結を促進し女性の農業経営への参画を支援
★女性農業者のリーダーを育成するために研修活動を支援

【重点目標7 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進】

施策の方向1
ワーク・ライフ・
バランスの理解促進

《主な取り組み》

★ワーク・ライフ・バランスをテーマとしたセミナーや講座の開催
★市内企業のモデルとして、市男性職員の育児休業の取得推進

施策の方向2
多様なライフスタイルに
合わせた就業・起業支援

《主な取り組み》

★失業者や離職者等に対する雇用機会を創出
★人材育成や情報提供など、起業しやすい環境づくりを推進
★店舗シェアリング支援事業で起業家を応援

施策の方向3
子育て環境の整備

《主な取り組み》

★休日・夜間・早朝など保育時間の弾力化と学童保育体制の充実
★多機能の「まちなか子育て支援センター」の整備
★子育てサポートシステム運営事業

【成果目標】…家族経営協定締結数(累計)を60(H23)から100(H25)とします。また、市男性職員の育児休業の取得者を1人(H23)から2人(年度毎)を目標にします。

平成23年度利用状況報告

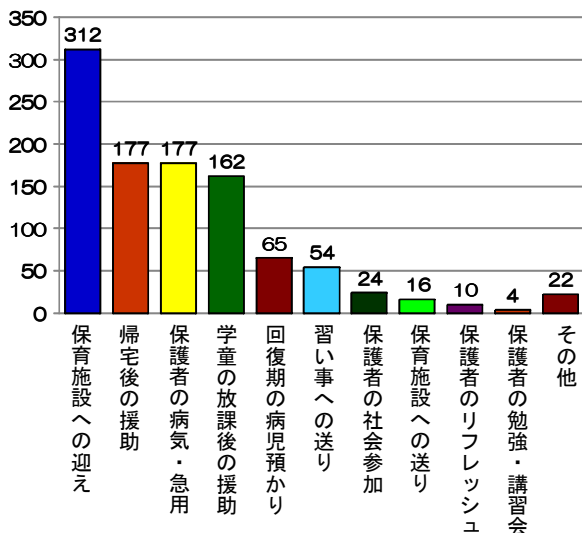
☆弘前市民参画センター

利用場所	利用者数	
	23年度	22年度
グループ活動室（有料）	15,209	14,691
ふれあいホール等（無料）	10,883	11,539
利用者数計（小計）	26,092	26,230
見学者	9	32
合計	26,101	26,817

利用目的	公共団体		一般団体		合計	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数
会議	26	583	306	3,767	332	4,350
講習会・研修会・勉強会・講座	9	253	665	9,044	674	9,297
講演会・フォーラム	0	0	7	240	7	240
その他	10	628	44	694	54	1,322
合計	45	1,464	1,022	13,745	1,067	15,209

☆さんかくネット

利用件数	23年度		22年度	
	依頼件数	預かり人数	依頼件数	預かり人数
個人	666	837	751	854
団体	118	522	38	80
計	784	1,359	789	934



◎休館日のお知らせ◎

弘前市民参画センターは、12月28日（金）～1月3日（木）まで休館します。

編集後記

友はいい！ここ数年、遠くに住む40年来の友人と年1回の旅行を楽しんでいる。中学生の頃に帰ったようにはしゃぎまわり、3日間の行程をおおいに楽しむ。日常から解放されて、友人と過ごす時間は格別である。「明日からがんばれる！あなたがいてよかった！」と言って別れる。来年の再会を約束して。 森

本の紹介

タイトル

「満月の夜、
母を施設に置いて」

藤川幸之助 詩
松尾たいこ 絵
谷川俊太郎 対談 中央法規出版 刊



～母の声なき心を詩に～

詩人・藤川幸之助さんのお母さまが認知症と診断されてから20年になるという。その20年の間、藤川さんは母のこと、父のこと、認知症のことを詩に書き続けてきたそう。母の介護は父に任せっきりで、仕事にかまけていた自戒の念や後ろめたさ、父の死後、介護を引き受けるようになってからのことなど。

ある日、お父さまから「病院で、お母さんはアルツハイマー病だと言われたんよ」と告げられた。「お母さんのことは、おれ一人ですっかり幸せにするけんね」と続けて話したという。その言葉どおり、自らも心臓病を患いながら、認知症のお母さまと命がけで生きていたそう。朝起きてから夜寝るまで、優しく根気よく妻を大切にしながら、ふたりの生活を淡々と繰り返してきた父を見て、初めて、尊敬する人物は父親だとはっきり言えるようになったという。

この詩集は、第一章～「母が、」・第二章～「父と、」・第三章～「息子は、」・詩人の谷川俊太郎さんとの対談・あとがきという構成になっている。本の帯に『誰のために生きているのか、母さん……』アルツハイマー病になった母に注がれる、切なくて哀しくて優しい詩たち。」と書かれていたが、その言葉がこの本の内容を言い尽くしていると思う。

私は母の立場から読んでしまったので、アルツハイマー病初期の頃のお母さまの苦しみは？と身につまされる思いを抱いた。読み手の立場や年齢で感じ方がそれぞれだと思うが、身近に起こりうる情景、思いが詰まっている詩集である。

by komori



弘前市民参画センター

〒036-8355 弘前市大字元寺町1番地13

TEL 0172-31-2500

FAX 0172-36-1822

開館時間 9:00～22:00

休館日 12月28日～1月3日

http://www.city.hirosaki.aomori.jp/gaiyo/shisetsu/kyouiku/htm_sankaku/framepage.htm

